賢く 優しく 逞しく

７月号・令和４年７月１日発行

本校ＵＲＬ　http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/　武蔵村山市立第五中学校

ネットトラブルの回避

校　長　榎戸　千代子

連日、厳しい暑さが続いています。先月６月１３日（月）から１７日（金）まで学校公開を実施しました。久しぶりに保護者の皆様に授業を参観していただき、貴重な御意見や御感想をいただきました。改善できるところは今後に生かしてまいります。お忙しい中、ありがとうございました。

さて、東京都教育委員会では、毎年６月、１１月、２月を「ふれあい月間」と定め、いじめや不登校、暴力などの問題行動を未然に防止し、子供たちの健全育成を目指した取組を重点的に行っています。本校では、６月の全校朝礼で「ふれあい月間」についての校長講話、スクールカウンセラーとの１年生全員面談、また全校で「いじめアンケート」を実施し、必要な生徒への個別面談や指導を行いました。

その中でここ数年気になるのが、どの学年でも頻繁に起こっている LINE などの SNS を介した「ネットトラブル」です。相手の悪口を多数の人が見る SNS 上にあげ、それを見た人が、言われた人に、こんな書き込みがあったよと教える。言われた人と言った人の仲が悪くなり、仲間はずれや不登校が起きるというようなトラブルが絶えません。また、相手の画像や動画を勝手に SNS 上に載せ、トラブルになるケースもあります。文字も画像も一度 SNS 上に載せると、次から次へと拡散し、完全に消し去ることはできません。顔や体などが写っている場合は、深刻です。

そこで、本校では６月１７日（金）にセーフティ教室を開催し、「ネットトラブルの回避」について学びました。今回は、LINE みらい財団オフィシャルインストラクターの柴田保文氏を講師にお招きし、ズームによる講演会を行いました。

まず、「リスクの見える化シート」を用い、最初に発した言葉が、「よく知っている人」→「ちょっと知っている人」→「全く知らない人」にどのように伝わっていくのかを、自分がその立場になって演習しました。柴田氏の話では、ネットの場合は想像することが多く、「想像」には思い込みが起きやすいそうです。ネットの特性として「拡散」（すぐに広がる）、「特定」（だれかがわかる）、「とく名」（名前を知られない）、「記録」（いつまでも消えない）、「デマ」（ウソを言ってしまう）があり、そこには４つの視点があるようです。それは、①「賛成する人の視点」（当事者の意見に賛成の人の視点）、②「ふざけやすい人の視点」（すぐに面白がったり、周りに広めようとしたりする人の視点）、③「信じやすい人の視点」（だれかの意見を信じやすい、思い込みしやすい人の視点）、④「批判しやすい人の視点」（当事者の意見に反対の人の視点）です。何かを発信する場合には、この４つの視点の人がいることを想像し、周辺者を意識して加害者にも被害者にもならないように、自分の書き込みを見直してほしいという話がありました。

今や中学生のほとんどが自分のスマートフォンを持っています。そして、買い与えているのは各家庭です。学校では、４月２８日付で出された武蔵村山市教育委員会からの便り、「話し合おう！家庭のルール～インターネットや SNS の利用について～」を御家庭にお配りしています。その中に、「子供たちが被害者や加害者にならないよう、大人がしっかりと使用状況を確認することが大切です。＜中略＞　インターネットの活用方法や情報モラル、SNS の使い方については、御家庭でも話し合い、実践していただきたい。」とあります。学校でもセーフティ教室や「SNS 東京ノート」等を活用して情報モラルについて指導しておりますが、ぜひ御家庭でもネットの危険性を教え、家庭での利用ルールを定めるなど、トラブル回避のためにお子様とよく話し合ってください。